

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部	1	Ⅱ	国語	Ⅱ 34	小学部1段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学 期	「お話しよう」(2)	○言葉の使い方、聞くこと、話すこと ・教師と一緒に、登場人物の模倣をして、簡単な言葉で応答したり、手を挙げている身振りをしたりする。 ・絵を見て教師や友達をやりとりしながら、声や動きの大きさ、体の向きなどを変えて呼び掛ける。 ・絵を見て、乗り物や生き物の具体的な名称を言ったり、乗り物や風景に注目して音や様子を表す言葉を音声模倣したり、言葉で伝え合ったりする。 ・友達と気付いたことや表現したことを発表し合う。	こくご☆ 「おーい」 P.4～10 ・絵、写真	知・技ア(ア) A <u>聞く・話す</u> イ
	「はるのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C <u>読む</u> ア
	「ぼくのいちにち」(3)	○言葉の特徴や使い方、書くこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 ・見聞きしたことや感じたことなどを具体物や絵、写真などを手がかりにして想起したり、相手に伝えたいことを考えたりする。	こくご☆ 「ぼくのいちにち」 P.12～15 ・具体物、絵、写真	知・技ア(イ) B <u>書く</u> ア
	「なつのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C <u>読む</u> ア
2 学 期	「しるし」(4)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 ・絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	こくご☆ 「しるし」 P.42 ・絵、写真	知・技ア(ア) C <u>読む</u> ウ
	「あきのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C <u>読む</u> ア
	「絵本をよもう」(4)	○身近な言葉、言葉の響き・リズム、読むこと ・絵本を見聞きし、言葉のもつ音やリズム、言葉が表す動作を楽しみながら模倣したりする。 ・呼び掛けに対する応答遊び、音まね・声まね遊び。 ・絵を見て登場人物の動きや表情を模倣、セリフを考えて自由に表現する。 ・提示された模型や写真、絵カードの中から一つ選ぶなどのやりとりを通して自分の思いを伝えたり、話したりする。 ・教師の発問を聞いて、発表し合う。	こくご☆ 「まほうのはこ」 P.16～27 ・絵本 ・ペープサート	知・技イ(イ) C <u>読む</u> エ

	「年賀状を書こう」(2)	○言葉の特徴や使い方、書くこと ・年賀状について知る。 ・年賀状のあいさつの言葉について知り、呼んだり、書いたりする。 ・年賀はがきに実際に書く。	郵便教育推進委員会監修 「手紙の書き方」	<u>知・技イ(ウ)㊦㊧</u> <u>B 書くことイ</u>
3 学 期	「かきぞめ」(4)	○写し書き、なぞり書き、書くこと ・書くことへの興味・関心を育てる。 ・いろいろな筆記具(筆、墨)の扱いに慣れる。 ・自由に書くことで、書くことを楽しむ。	こくご☆ 「かいてみよう」 P.82～88 ・筆、墨、硯、半紙	<u>知・技イ(ウ)㊦㊧</u> <u>B 書くことイ</u>
	「ふゆのことば」(6)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読むア</u>
年 間 を 通 し て	「ことばあそび」	○身の回りのものや人の名前 ・声や音のする方向に気付いたり、反応したりする。 ・知っている人の声を聞き分ける。 ・身の回りのものや人物の名前が分かる。 ・絵本に出てくるものに指を指す、「これはなあに？」の質問に答える。	・具体物 ・絵カード ・写真 ・絵本	<u>知・技ア(ア)</u> <u>A 聞く・話すアイ</u>
	「かいてみよう」	○書く動作、姿勢 ・筆記用具を持つことができる。 ・色々な筆記用具に触れ、書くことを楽しむ。 ・なぐり書きをする。 ・書いた線や形を他の物に見立てて楽しむ。	こくご☆ 「かいてみよう」 P.82～88 ・クレヨン、フェルトペン、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペン、筆、はけ、チョークなど	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読むア</u>

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部	2	Ⅱ	国語	Ⅱ 35	小学部1段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1学期	「はるのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C 読むア
	「がっこう だいすき」(3)	○読み聞かせ、聞くこと、話すこと、読むこと ・教科書の絵を見て、想起される言葉や擬声語などを声に出す。 ・話題について、表情や身振り、音声で、模倣したり応答したりする。 ・絵本などを見て、知っている事物や出来事などに視線を向けたり、指さしをしたりする。 ・図書室を利用し、絵本を選んだり、紙芝居やペープサート、写真やビデオなどの映像教材を見たりする。	こくご☆ 「がっこうだいすき」 P.28～33 絵本、紙芝居、学校内の写真	知・技イ(エ) A 聞く・話す
	「なつの ことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C 読むア
	「暑中見舞いを書こう」 (3)	○言葉の特徴や使い方、書くこと ・暑中見舞いについて知る。 ・暑中見舞いのあいさつの言葉について知り、呼んだり、書いたりする。 ・はがきに実際に書く。	郵便教育推進委員会監修 「手紙の書き方」	知・技イ(ウ)㊦㊧ B 書くことイ
2学期	「絵本を読もう」(3)	○読み聞かせ、順番を考える、想像する力 ・紙芝居や写真や絵、映像などを見て、身近にある事物や事柄、生き物が表現されていることに気付き、注目する。 ・登場する動物の鳴き声を真似したり、絵に注目したりする。 ・呼び掛けに対する応答遊び、音まね・声まね遊びを通して、言葉の響きやリズムを体感したり、楽しんだりする。	こくご☆ 「あなたはだあれ」 P.70 写真、絵、紙芝居	知・技イ(エ) C 読むア
	「あきのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C 読むア
	「ことばあそび」(3)	○わらべうた、読み聞かせ、聞くこと、話すこと ・説明や挿絵を手がかりに内容を伝え、話掛けに応じることができるようにする。 ・言葉をリズムカルに児童に伝える。 ・文字の存在に気付かせる。 ・児童がくまさん役になり、教師からの呼び掛けに応じたり、いろいろな動作を一緒にしたりする。	こくご☆ 「くまさん くまさん」 P.54 絵、わらべうた	知・技イ(ア) A 聞く・話すア

	「おはなししよう」(4)	○言葉の特徴や使い方、聞くこと、話すこと、読むこと ・できあがったホットケーキを見て「おいしそう」「食べたい」などの感情を表現させる。 ・ホットケーキを作っている絵を見て、「グルグル」「ポターン」などの擬音語で表現する。 ・絵を見ながら、「どんな音がするかな」などの端的な質問をする。 ・教師と児童、児童同士で「はいどうぞ」「ありがとう」などの日常生活のやりとりを取り入れる。	こくご☆ 「ほっとけーき」 P.44 絵、写真、絵本、動画	<u>知・技ア(ア)</u> <u>A 聞く・話すウ</u> <u>C 読むイ</u>
3 学 期	「かきぞめ」(4)	○写し書き、なぞり書き、書くこと ・書くことへの興味・関心を育てる。 ・いろいろな筆記具(筆、墨)の扱いに慣れる。 ・自由に書くことで、書くことを楽しむ。	こくご☆ 「かいてみよう」 P.82～88 筆、墨、硯、半紙	<u>知・技イ(ウ)㊦㊧</u> <u>B 書くことイ</u>
	「ふゆの ことば」(6)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 具体物、絵本、写真	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読むア</u>
年 間 を 通 し て	「ことばあそび」	○言葉の理解 ・似ている言葉を聞き分ける。 ・言葉を音節に分けて理解できる。 ・同じ平仮名のつく言葉から、同じ音を見つける。 ・「例:あ」のつく言葉を探す。 ・しりとり遊びをする。	具体物 絵カード 写真 絵本	<u>知・技ア(ア)</u> <u>A 聞く・話すアイ</u>
	「かいてみよう」	○書く動作、姿勢 ・筆記用具を持つことができる。 ・色々な筆記用具に触れ、書くことを楽しむ。 ・横縦方向の線や横方向の線を書く。 ・書いた線や形を他の物に見立てて楽しむ。	こくご☆ 「かいてみよう」 P.82～88 クレヨン、フェルトペン、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペン、筆、はけ、チョークなど	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読むア</u>

学部		学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部		3	Ⅱ	国語	Ⅱ 35	小学部2段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたり力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学期	「なまえ なあんだ」(4)	○言葉、平仮名、読むこと ・母音の口形に注目し、正しい発音を知る。 ・名前の呼び方と文字の双方を結び付ける。 ・日頃接している全ての人や物に名前があることを知る。 ・多くの名前を覚え、学習や生活の中で活用していこうとする思いを育てる。 ・言葉と場面を関連付けて想起できるようになる。	こくご☆☆ 「なまえ なあんだ」 (あいうえお、せいかつ、かお、からだ、かげえ) P.28～39	知・技ア(イ) C 読む(ア)
	「がっこうせいかつ」(4)	○言葉、聞くこと、話すこと ・日常生活で使われる言葉を知る。 ・経験や体験を基に、知っている言葉と結びつけて扱える言葉を豊かにする。 ・場面に応じた言葉や日常的に使う言葉を発言できる。 ・日常の学校生活を通して、挨拶や会話に親しむことができるようになる。	こくご☆☆ 「がっこうせいかつ」 P.6～11	知・技ア(ア) C 聞く(ア)
	「かいてみよう」(5)	○写し書き、なぞり書き、書くこと ・書くことへの興味・関心を育てる。 ・いろいろな線をなぞったり、まねて書いたりすることを通して、線の引き方を練習する。 ・〈なぞる〉直線、波線、円に近い線、渦巻き線、ら旋の線 ・〈むすぶ〉始点と終点を意識し、結ぶ練習をする。	こくご☆☆ 「かいてみよう」 P.48～51	知・技イ(ウ)㊦㊧ B 書く(イ)
	暑中見舞い(1)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・日本の伝統文化に親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	こくご☆☆ 「かいてみよう」 (かーど、てがみ) P.106～107 ・はがき ・色々な筆記具	知・技ア(イ) イ(ウ) B 書く(ア)(イ)
2 学期	「夏休みの思い出」(1)	○聞くこと・話すこと、読むこと ・体験したいことなどについて、伝えたいことを考えることができる。 ・日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。	こくご☆☆ 「ひらがなをかいてみよう」 (えにつき) P.102～103 ・絵日記	知・技ア(イ) A 話す・聞く(ウ)
	「なまえ なあんだ」(5)	○言葉、読むこと ・母音の形に注目して正しい発音を知る。 ・日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。 ・いろいろな名前を覚える。 ・覚えた言葉をどんな時に使うかなど、児童が知っている場面と関連付けて想起できるようになる。	こくご☆☆ 「なまえ なあんだ」 P.40～45	知・技ア(イ) C 読む(ア)

	「おはなし できるかな」 (6)	○言葉、聞くこと・話すこと ・物の名前や動作など日常生活で接するいろいろな言葉に触れる。 ・出来事の順番や話の最後の場面を考え想像する力を身に付ける。 ・話題を共有したり、自分の思いが伝わりやすくなったりする経験を重ね、伝え合うよさを味わうことができる。	こくご☆☆ 「おはなしできるかな」 P.12～19	<u>知・技ア(ウ)</u> <u>C 聞く(イ)</u>
	年賀状(1)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・日本の伝統文化に親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	こくご☆☆ 「ひらがなをかいてみよう」 (てがみ) P.106～107 ・はがき ・色々な筆記具	<u>知・技ア(イ)</u> <u>イ(ウ)</u> B <u>書く(ア)(イ)</u>
3 学 期	「書き初め」(2)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・日本の伝統文化に親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	こくご☆☆ 「ひらがなをかいてみよう」 P.92～93 ・用紙 ・いろいろな筆記具 ・習字道具	<u>知・技ア(イ)</u> <u>イ(ウ)</u> B <u>書く(イ)</u>
	「文を書こう」(8)	○言葉、写し書き、なぞり書き、書くこと ・書写の初歩的な技能を養う。 ・事柄を表したり、伝えたりするために、決まった平仮名の組み合わせがあることを知る。 ・なぞったり書いたりする学習を通して、平仮名の形を意識する。 ・正しい書写の姿勢や筆記具の正しい持ち方を体験的に理解する。 ・楽しかったことや自分の気持ちなどを文で表そうとすることができる。 「ひらがなをかいてみよう」	こくご☆☆ 「ひらがなをかいてみよう」 (えにつき、か一ど、てがみ) P.102～107	<u>知・技ア(ア)</u> <u>イ(ウ)</u> B <u>書く(ア)(イ)</u>
年 間 を 通 し て	「ひらがなをよんでみよう」	○読むこと、言葉の特徴や使い方 ・知っている平仮名や自分の名前に使われている平仮名を50音表から探したり、読んだりすることができる。 ・絵にあった文字を正しく組み合わせ、音節を意識しながら読む。 ☆☆	こくご☆☆ 「ひらがなをよんでみよう」 (ごじゅうおん) P.76～91	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読む(ア)</u>
	「季節の言葉」	○言葉、聞くこと、話すこと ・日常生活で使われる言葉を知る。 ・経験や体験を基に、知っている言葉と結びつけて扱える言葉を豊かにする。 ・場面に応じた言葉や日常的に使う言葉を発言できる。	こくご☆☆ P.28～45 P.76～91	<u>知・技 ア(イ)</u> <u>C 読む(ア)</u>

学部		学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部		4	Ⅱ	国語	Ⅱ 70	小学部2段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたり力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1学期	「なまえ なあんだ」(4)	○言葉、平仮名、読むこと ・母音の口形に注目し、正しい発音を知る。 ・名前の呼び方と文字の双方を結び付ける。 ・日頃接している全ての人や物に名前があることを知る。	こくご☆☆ 「なまえ なあんだ」 (あいうえお、じぶんのなまえ ともだちのなまえ) P.28～29	知・技ア(イ) C 読む(ア)
	「どんな きもちかな」(8)	○言葉の特徴や使い方、聞くこと・話すこと ・抱いた気持ちを言葉で表現する。 ・自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わる良さを感じる。 ・気持ちを表す言葉の働きに気づき、気持ちを言葉で表現しようとする思いを育てる。	こくご☆☆ 「どんな きもちかな」 P.20～23	知・技ア(ア) A 話す・聞く(ウ)
	「あつめてみよう」(10)	○言葉の特徴や使い方、平仮名、聞くこと・話すこと ・経験をもとに、それぞれの場面で使うものとその名前を思い浮かべたり、思い浮かべたものを絵や実物などと一致させたりする。 ・身近な人との会話の中で、言葉を用いて考えたり、表現したりする。 ・言葉を用いて伝え合う楽しさや意欲を育てる。	こくご☆☆ 「あつめてみよう」 P.52～57	知・技ア(ウ) A 話す・聞く(ウ)
	「暑中見舞い」(2)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどを通して、書字の基本を身に付ける。 ・日本の伝統文化に親しむ。	こくご☆☆ 「ひらがなを かいてみよう」 (かーど、てがみ) P.106～107 ・はがき ・色々な筆記具	知・技ア(イ) イ(ウ) B 書く(ア)(イ)
2学期	「夏休みの思い出」(2)	○話すこと・聞くこと ・体験したいことなどについて、伝えたいことを考えることができる。 ・日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。	こくご☆☆ 「ひらがなを かいてみよう」 (えにつき) P.102～103 ・絵日記	知・技ア(イ) A 話す・聞く(ウ)
	「劇遊びをしよう」(7)	○我が国の言語文化、聞くこと・話すこと ・教師の読み聞かせを見たり、劇中の動物や人物を演じたりする。 ・「おーい。」「よいしょよいしょ」など、児童になじみやすいセリフやフレーズを用いて、言葉による表現を楽しめるようにする。	こくご☆☆ 「おおきな だいこん」 P.24～27	知・技イ(ア)(イ) A 話す・聞く(エ)

	「しるしを みつけよう」 (7)	○わが国の言語文化、読むこと ・児童の身近に見られる標識などを取り上げ、関心をもたせる。 ・標識などに書かれたマークを見て自分の取るべき行動に結び付けたり、取るべき行動と言葉を結びつけたりする。 ・日常生活の中で標識などを見つけ、意味することを言葉にしたり、表されている事柄を理解して、進んで行動してみたりする気持ちにつなげる。	こくご☆☆ 「しるしを みつけよう」 P.46～47	<u>知・技イ(エ)</u> <u>C 読む(ウ)</u>
	「本に親しもう」(8)	○我が国の言語文化、読むこと ・読み聞かせを通して、言葉の響きやリズムに親しみながら、好きな台詞や場面に注目する。 ・挿絵やうさぎとかめのやり取りを手がかりにして、うさぎとかめの大体を捉える。	こくご☆☆ 「うさぎとかめ」 P.70～75	<u>知・技イ(ア)(エ)</u> <u>C 読む(イ)(エ)</u>
	「年賀状」(2)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・日本の伝統文化に親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	こくご☆☆ 「ひらがなを かいてみよう」 (か一ど、てがみ) P.106～107 ・年賀はがき ・色々な筆記具	<u>知・技ア(イ)</u> <u>イ(ウ)</u> <u>B 書く(ア)(イ)</u>
3 学 期	「書き初め」(1)	○書くこと、写し書き、なぞり書き ・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむ。 ・日本の伝統文化に親しむ。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付ける。	こくご☆☆ 「ひらがなを かいてみよう」 P.92～93 ・用紙 ・いろいろな筆記具 ・習字道具	<u>知・技ア(イ)</u> <u>イ(ウ)</u> <u>B 書く(イ)</u>
	「くわしく はなそう」 (9)	○言葉の特徴や使い方、聞くこと・話すこと ・日常生活でよく耳にする二語文の表現(詳しく話すこと)に興味・関心をもたせる。 ・形容する言葉「○○い△△」、所有を表す助詞を用いた表現「○○の△△」、動作を表す言葉「○○を△する」、などに触れ、児童が思い浮かべた事物や事柄を、より詳しく相手に伝える。	こくご☆☆ 「くわしく はなそう」 P.58～69	<u>知・技ア(ウ)</u> <u>A 聞く、話す(ア)</u>
	「文を書こう」(10)	○言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化、書くこと ・一筆で書ける易しい平仮名や、とめ、はね、はらいに注意して書くようなものを段階的に学習する。 ・一筆や二筆で書かれた平仮名を、指でなぞったり、筆記具で書いたりする。 ・見本となる平仮名をなぞったり、書けるようになった平仮名をマスの中に書き表したりして、平仮名の形を意識できるようにする。 ・正しい書字の姿勢や筆記具の正しい持ち方を体験的に理解することや、正しい筆順で平仮名を書く習慣を養う。	こくご☆☆ 「ひらがなを かいてみよう」 P.92～101	<u>知・技ア(ア)</u> <u>イ(ウ)</u> <u>B 書く(ア)(イ)</u>
年 間 を 通 し て	「ひらがなをよんでみよう」	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・教師や友達と一緒に声を出して、音節を意識しながら読む。 ・濁点、半濁点に気を付けて読んだり、身の回りにある濁点や半濁点などを使った言葉を探して読みあったりする。	こくご☆☆ 「ひらがなをよんでみよう」 (てんてん、似ている文字) P.76～91	<u>知・技ア(イ)</u> <u>C 読む(ア)</u>

学部		学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部		5	Ⅱ	国語	Ⅱ 70	小学部3段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1学期	「自己紹介をしよう」(4)	○挨拶、話し方、読み方 ・相手との距離や場面に応じて、相手に伝わるように声の大きさに気をつけて話す。 ・姿勢や口形に気をつけて話したり、音読したりする。 ・司会進行や自己紹介を通して、慣用的に用いられている言い方を学習する。 ・自分の思いを伝えるための言葉や表現しようとする意欲を育てる。	こくご☆☆☆ 「かんげいかい」 P.6～11	知・技ア(イ)、ア(カ) A 聞く・話す エ A 聞く・話す オ
	「平仮名を読もう」(4)	○平仮名・片仮名・漢字の正しい読み方 ・児童にとって身近な物を取り上げ、清音に加えて、促音、長音、拗音などの正しい読み方を知る。 ・語句のまとまりを意味する言葉を扱うことで、児童が理解し用いることができる言葉の数を増やす。 ・語句や文を読み、内容を理解して、自ら読み取った内容に応じた行動をとる。 ・言葉の響きやリズムに親しむ。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをよもう」 「わらべうた」 P.20～21	知・技ア(ウ)、ア(エ) C 読む ウ
	「言葉の使い方～日常生活で使う言葉～」(4)	○挨拶、決まった言い方、読み方 ・挨拶や簡単な受け答えができる。 ・身近な人からの簡単な指示や依頼を聞き取って伝言できる。 ・メモを見て、書かれている文字を正しく読み、その通りに行動できる。	こくご☆☆☆ 「かいもの」 P.16～17	知・技ア(ウ) A 聞く・話す エ C 読む ウ
	「物語を読もう」(4)	○音読、発声、声の大きさ ・簡単な内容の脚本を劇にし、言葉や動作により表現する力を高める。 ・役割を決め、登場人物になったつもりで、音読したり演じたりする。 ・見ている相手に伝わるよう、発声や声の大きさに気をつけたり、姿勢や口形に気を付けたりする。	こくご☆☆☆ 「三びきのこぶた」 P.22～33	知・技ア(イ) A 聞く・話す オ C 読む エ
	「思い出して話そう」(4)	○経験したことの発表 ・経験したことを思い浮かべ、それらのあらましやそのときに感じた気持ちなどを発表する。 ・教師や児童同士のやりとりを通して、言葉により物事の内容を表すことができることに気付く。 ・相手の話に関心を持ち、思いを伝えたり受け止めたりできる。 ・自分の思い等を相手に伝えるために新しく言葉を知って使えるようになったり、適切に表現しようとしたりする意欲をもつ。	こくご☆☆☆ 「たのしかったえん足」 P.12～15	知・技ア(ア)(イ) A 聞く・話す イ、ウ、オ、カ
	「暑中見舞いを書こう」(4)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをかこう」 「かたかなをかこう」 「かん字をよもう・かこう」 P.82～93	知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦ B 書く エ
一学期	「読んで答えよう」(6)	○簡単な説明文の読み取り ・簡単な説明文を読み、内容の大体を捉えることができる。 ・促音、長音、拗音を含む語句や、簡単な漢字について、正しい読み方を知ることができる。 ・児童が興味・関心を高め、図鑑を読むなど、図書に親しむ。	こくご☆☆☆ 「のりもの」 P.36～37	知・技ア(ウ) C 読む イ

	「説明をよんでみよう」 (6)	○説明文の読み取り ・説明文を読み、必要な物を読み取って準備する。 ・説明文に示されている手順を理解し、その通りに制作する。 ・自作したペープサートで楽しみながら演じることができる。	教科書☆☆「ペープサート をつくろう」教科書 P.60～63	<u>知・技イ(ア)</u> <u>C 読むこと ウ、エ</u>
	「本に親しもう」(4)	○本の探し方・使い方 ・学校図書館で目的の本を探すことができる。 ・本の中から見たかった箇所を見つけて、その内容の大体を捉えることができる。 ・図書に親しむ態度を養う。	教科書☆☆「本をさがそう」 教科書 P.40～41	<u>知・技イ(イ)、ウ(エ)</u> <u>C 読むこと イ</u>
	「言葉の使い方」(6)	○ポスターや立て札などの読み取り ・ポスターや立て札が表していることを読み取ることができる。 ・拗長音や簡単な漢字が含まれているポスターや立て札などを読むことができる。 ・ポスターや立て札などを読み、日常生活に生かそうとすることができる。	教科書☆☆「かんばんをよ もう」教科書 P.44～45	<u>知・技ア(ウ)</u> <u>C 読むこと ウ</u>
	「年賀状を書こう」(4)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	教科書☆☆「ひらがなをか こう」「かたかなをかこう」「かん 字をよもう・かこう」教科書 P.8 2～93	<u>知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦</u> <u>B 書くこと エ</u>
3 学 期	「書き初め・新年の抱負」 (6)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	教科書☆☆「ひらがなをか こう」「かたかなをかこう」「かん 字をよもう・かこう」教科書 P.8 2～93	<u>知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦</u> <u>B 書くこと エ</u>
	「文を書こう」(6)	○経験したことを書く ・身近な出来事や経験を三語から四語程度による文で書くことができる。 ・主語と述語の関係、助詞の使い方などを考えることができる。 ・言葉の使い方に興味関心を持ち、文で表現しようとする。	教科書☆☆「文をかこう」教 科書 P.94～97	<u>知・技ア(ウ)、ウ(イ)</u> <u>B 書くこと ウ、エ</u>
	「手紙を書こう」(8)	○伝えたい事柄を手紙に書く ・相手に伝えたい事柄を考えることができる。 ・伝えたい内容が相手に伝わるように語や語句、文の使い方に気をつけて書くことができる。 ・手紙として用いる紙の素材や大きさ、筆記具の選び方に気をつけて清書することができる。	教科書☆☆「手がみをかこ う」教科書 P.104～105	<u>知・技ア(オ)、イ(ア)、ウ(イ)(ウ)㊦</u> <u>B 書くこと ア、イ、ウ、エ、オ</u>
年 間 を 通 し て	文字の読み書き	○平仮名・片仮名・漢字に親しむ ・身近な事物とそれらを表す言葉を読んだり書いたりする。		<u>知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦</u> <u>B 書くこと エ</u>

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
小学部	6	Ⅱ	国語	Ⅱ 70	小学部3段階

目 標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学 期	「自己紹介をしよう」(4)	○挨拶、話し方、読み方 ・相手との距離や場面に応じて、相手に伝わるように声の大きさに気をつけて話す。 ・姿勢や口形に気をつけて話したり、音読したりする。 ・司会進行や自己紹介を通して、慣用的に用いられている言い方を学習する。 ・自分の思いを伝えるための言葉や表現しようとする意欲を育てる。	こくご☆☆☆ 「かんげいかい」 P.6～11	知・技ア(イ)、ア(カ) A 聞く・話す エ A 聞く・話す オ
	「片仮名を読もう」(4)	○片仮名、読み方 ・正しい読み方を知る。 ・正しい姿勢で音読する。 ・拗音や長音などが含まれた片仮名の正しい読み方を知る。 ・片仮名に興味をもち、日常生活で目にする片仮名を読んで、慣れる。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをよもう」 「わらべうた」 P.6～11	知・技ア(ウ) C 読む ウ
	「パーティーをしよう」(4)	○片仮名、読み方 ・片仮名を含んだ文の正しい読み方を知ったりして、扱うことのできる言葉の数を増やす。 ・登場人物になりきって音読したり演じたりすることで、感情を込めた読み方ができるようになる。	こくご☆☆☆ 「パーティーをしよう」 P.64～65	知・技ア(ウ)(エ) C 読む エ
	「言葉の使い方～電話～」(4)	○電話の受け方・掛け方 ・簡単な電話の受け方や掛け方、基本的な会話の仕方を身に付ける。 ・口形や発音、声の大きさに気を付けたり、丁寧な言葉で話したりすることができる。 ・新しい言葉を知って使えるようになったり、適切に表現しようとしたりする意欲を育てる。	こくご☆☆☆ 「でんわ」 P.18～19	知・技ア(イ) A 聞く・話す エ、オ
	「えにつきをかこう」(4)	○絵日記の書き方 ・経験した出来事などを絵日記に三文程度の文章で書き表し、友達や教師と伝え合うことができる。 ・書くための材料を集め、伝えたい事柄を経験した順序で整理して構成を考えることができる。 ・書いた文章を読み返し、事柄の順序や表記など書くことに関する事項を意識して、誤り等がないか確認したり、正しく書き直したりすることができる。 ・自分の思いや考えを伝えることや、相手の文章に関心を持って話を聞こうとする態度を育てる。 ・様々な場面で文章を書いて表現しようとする意欲を高める。	こくご☆☆☆ 「えにつきをかこう」 P.98～103	知・技ア(オ)、イ(ア)、ウ(イ) B 書く ア、イ、ウ、エ、オ
	「暑中見舞いを書こう」(5)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをかこう」 「かたかなをかこう」 「かん字をよもう・かこう」 P.82～93	知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦ B 書く エ
2 学 期	「読んで答えよう」(10)	○説明文の読み取り ・簡単な説明文を読み、内容の大体を捉えることができる。 ・文章中の促音を含む語句や、簡単な漢字について、正しい読み方を知る。 ・図書に親しむ態度を養う。	こくご☆☆☆ 「花」 「さつまいも」	知・技ア(ウ)イ(ア) A 話す・聞く ウ C 読む イ

		・文章に含まれている時間的な順序についての情報を読み取り、理解することができる。 ・言葉によって情報のつながりについても伝えることができるという、言葉がもつよさを感じる。 ・自らの経験を基に、内容や様子を思い浮かべるなど、想像する力を養う。	P.38～39、42～43	
	「本に親しもう」(6)	○物語文の聞き取り・読み取り ・読み聞かせなどを通して、言葉の響きやリズムに親しみ、出来事などの話の大体を聞き取れるようにする。 ・挿絵と結びつけて登場人物の行動や場面の様子などを想像したり、本文を基に、話の順序なども捉えられるようにする。	こくご☆☆☆ 「ブレーメンの まちのおはなし」 P.66～81	知・技ア(ウ) A <u>聞く・話す ア</u> C <u>読む イ、ア</u>
	「年賀状を書こう」(10)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをかこう」 「かたかなをかこう」 「かん字をよもう・かこう」 P.82～93	知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦ B <u>書く エ</u>
3 学 期	「書き初め・新年の抱負」 (6)	○文字を使った表現 ・身近な物事とそれらを表す言葉を、平仮名・片仮名・漢字を使って書き表す。 ・清音だけではなく、濁音や促音、拗音の書き表し方の特徴に気付く。 ・文字を使って書き表すことに興味・感心をもつ。 ・自分の思いや考えを、平仮名・片仮名・漢字を使って積極的に伝えていこうとする。	こくご☆☆☆ 「ひらがなをかこう」 「かたかなをかこう」 「かん字をよもう・かこう」 P.82～93	知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦ B <u>書く エ</u>
	「文を書こう」(6)	○経験したことを書く ・身近な出来事や経験を三語から四語程度による文で書くことができる。 ・主語と述語の関係、助詞の使い方などを考えることができる。 ・言葉の使い方に興味関心を持ち、文で表現しようとする。	こくご☆☆☆ 「文をかこう」P.94～97	知・技ア(ウ)、ウ(イ) B <u>書く ウ、エ</u>
	「手紙を書こう」(8)	○伝えたい事柄を手紙に書く ・相手に伝えたい事柄を考えることができる。 ・伝えたい内容が相手に伝わるように語や語句、文の使い方に気をつけて書くことができる。 ・手紙として用いる紙の素材や大きさ、筆記具の選び方に気をつけて清書することができる。	こくご☆☆☆ 「手がみをかこう」 P.104～105	知・技ア(オ)、イ(ア)、ウ(イ)(ウ)㊦ B <u>書く ア、イ、ウ、エ、オ</u>
年 間 を 通 し て	文字の読み書き	○平仮名・片仮名・漢字に親しむ ・身近な事物とそれらを表す言葉を読んだり書いたりする。		知・技ア(ウ)(エ)、ウ(ウ)㊦ B <u>書く エ</u>

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
中学部	1	Ⅱ	国語	Ⅱ 70	中学部1段階

目 標	知識及び技能	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学期	「詩 ただいるだけで」（4）	・知っている言葉や、新たに獲得した言葉の使い方に気をつけて、様々な気持ちを伝え合えるようにする。 ・内容の示し方で詩という種類に分類できることを知り、文の表す場面の様子や情景を読み取ることで、情操を深めていけるようにする ・言葉を使って自分の気持ちや考えを表したり、様々な相手の詩を読むことで、お互いの気持ちを伝え合おうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P2	知・技ウ(エ) C 読むア
	「言葉のページ 書いてみよう①」（4）	・日常生活で用いられる語句や文章を読んだり、書いたりすることで長音・拗音の表記、助詞の使い方等を意識し、その規則性に気づき身につけていくことができるように意図している。 ・自分の文章を丁寧に読み返し、間違いに気づくことができるように意図している。 ・日常生活で身近なものを正しく読んだり、書いたりすることで、楽しく潤いのある生活に繋がるような態度を育てることが大切。	「こくご☆☆☆☆」P16	知・技ア(ウ) B 書くエ
	「言葉のページ 声を出して読んでみよう」(4)	・日常生活で用いられる語句や文章を読むことを通して、語句相互の意味を理解し、語句には同音異義語があり、同音でもアクセントによって意味が異なることがあることに気づくことができるように意図している。 ・言葉には意味による語句のまとまりがあることを理解し、興味のある文章を読むことにつなげていけるようにする。 ・日常生活で身近なものを正しく読み、楽しく潤いのある生活に繋がるような態度を育てることが大切。	「こくご☆☆☆☆」P18	知・技ア(エ) C 読むウ
	「言葉のページ 言葉の意味、仲間の言葉」(4)	・日常生活で用いられる語句や文章を読むことを通して、言葉の意味を考えることを意図している。 ・語句には同音異義語、対義語や同義語、上位語、下位語があることに気づくことができるようにする。 ・日常生活で、言葉の意味を考えながら、読んだり、書いたりすることで楽しく潤いのある生活に繋がるような態度を育てることが大切。	「こくご☆☆☆☆」P20, 21	知・技ア(エ) C 読むウ
	「詩 春の歌、空」(4)	・短い言葉による表現の形式である詩を読み、情景や心情を想像することができることを意図している。 ・短い言葉の中に作者の思いや自然・季節の美しさが込められている詩を、生徒が日本の言語文化として理解しようとすることを意図している。 ・自分の考えを言葉で表したり、情景を想像し、感じ取ったことを伝え合ったりすることで、情操を豊かにしていく態度を育てることが大切。	「こくご☆☆☆☆」P34, 36	知・技ウ(エ) C 読むア
	「手紙を書こう」(4)	・見聞きしたことや、経験したことから、伝えたいことを選び、書く内容を大まかにまとめることができるようにする。 ・手紙文や、挨拶状には目的や季節、相手に応じた表現があることを知るようにする。 ・実際にはがきや手紙を受け取ったり、書いたりすることで日常生活を充実しようとしたり、お礼の気持ちを伝え人間関係の形成を図ろうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P86	知・技ウ(イ) B 書くア
	「言葉のページ 書いてみよう②」(4)	・自分が書いた文字を周囲の人に読みやすくしたり、間違いを正したりすることができるように、点画相互の関係性に注意して書けるようにする。 ・文字を書くときの姿勢や、筆記具の持ち方を正しくして、丁寧に書けるようにする。 ・自分が書いた字で伝えたり、考えようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P93	知・技ウ(ウ)㊦㊧ B 書くエ
2 学期	「作品をしょうかいしよう」(4)	・生徒が作品を作る過程で経験した事実や自分の気持ち、意見を相手に伝えることを意識して、伝えたいことを順序立てて話すことができるようにする。 ・自分の伝えたいことを整理して伝え、相手に共感してもらったり、認めてもらうことで、伝える良さを時間できることも意図している。 ・言葉を用いて、やりとりしようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P12	知・技ア(ア) A 聞く・話すウ
	「本に親しもう」(4)	・図書室で、物語や紀行文に触れることで、文章の展開に即して場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動や心情が変化していくことを把握し、その様子を豊かに想像しながら、読むことを意図している。 ・図書室で、内容や記し方によって物語や詩、紀行文等に分類できることを知り、読書に親しむことができる。 ・図書に親しみ、言葉で考えたり、伝え合ったりしようとする態度を養う。	「こくご☆☆☆☆」P27	知・技ウ(エ) C 読むア

	「いろいろな標識・表示」(4)	・学校や、町、公共施設で見かける、交通機関や乗り場の表示、安全や危険、指示を知らせる標識や案内板、色々な店の看板やポスター、広告等が表す意味を考え、判断したり行動したりすることができるようになる。 ・日常用いる言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 ・町や公共施設で見かける標識や表示に着目して意味を考え、適切に行動しようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P38～43	<u>知・技ア(ア)</u> <u>C 読むウ</u>
	「オオカミと羊飼 い」(5)	・読んだ文章の内容について相手に伝えるために、読み取った内容が適切か自分で再考する。更に印象に残ったフレーズ等を選んだり、文章全体の印象や、内容に対する思いを自分なりに言葉で表現することができる。 ・複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序づけられていることを認識する。また、読書に親しみ、内容や記し方によって物語や詩、紀行文といった種類に分類できることを知る。 ・語句の意味などから、文や文章が表している場面の情景や事柄の流れ、登場人物の心情などを読み取ることで、情操を深めていこうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P54	<u>知・技イ(ア)</u> <u>知・技ウ(エ)</u> <u>C 読むエ</u>
	「ねぼうしたねこ」(4)	・年賀状や生活とのかかわり深い十二支について古くから伝わる話を簡単な話に再構成している。簡単な文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像できるようにする。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する。読書に親しみ、簡単な物語があることを知ることができる。 ・事柄の順序を追って理解する楽しさや、場面の様子を想像しようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P58	<u>知・技イ(ア)</u> <u>知・技ウ(エ)</u> <u>C 読むア</u>
	「言葉のページ 主語と述語」(4)	・前後の語句のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考える。また助詞の使い方を意識しながら自分が書いた一文一文を丁寧に読み返し、間違いを正しく改められるようになる。 ・主語と述語の適切な係り受けの理解や、前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語句の役割を理解できるようにする。 ・様々な場面で主語と述語を意識し、考えたり、伝え合ったりしようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P92	<u>知・技ア(オ)</u> <u>B 書くウ・エ</u>
	「山の家に行って」(5)	・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることや簡単な文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情を想像できるようにする。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解できるようにする。 ・自分の経験と比べながら文章を読んだり、場面の様子や、書き手の気持ちを捉えたりして、作文を書こうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P94	<u>知・技イ(ア)</u> <u>B 書くア</u> <u>C 読むア</u>
3 学 期	「ペンギンショーを見に行こう」(4)	・校外学習で水族館を訪れ、見学する順番を確認するために館内放送を聞く場面を取り上げ、放送を聞くことで必要なことを書き留めるようにし、話の大体を捉えることができるようにする。 ・必要な事柄を聞き取ることで自分たちの目的としていることを達成させることができることや、自分たちも話を聞き取り、やりたいことができるようにする。 ・話の内容から、相手に伝えたいことを主体的に聞き取ろうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P8	<u>知・技ア(ア)</u> <u>A 聞く・話すア</u>
	「水道水ができるまで」(4)	・浄水場での過程が大きく四つのまとまりで紹介された説明文である。始めに、次にといった時間的な順序に沿って読むことで、自分たちが使っている水道水ができあがる様子を読み取ることができる。 ・文章を読むことで、新しい知識が得られることを楽しんだり、別の文章をもっと読んでみようとしたりする態度を育てることができる。	「こくご☆☆☆☆」P46	<u>知・技イ(ア)</u> <u>C 読むイ</u>
	「作ってみよう」(4)	・時間を表す言葉や、接続する語句などを正しく読み取ることで、文章の時間的な前後関係について大体を捉えながら、生活に必要な身近なものの使用法や簡単な調理法の説明書を読み、大体の使い方や、作り方を捉えることができる。 ・長音、拗音、促音、撥音、助詞の規則性について、語句や文章を読んだり、書いたりすることを通して気付いたり、正しい読み方や書き方を身につけていくことができる。 ・自分から調べてみようとし、学校図書館などを利用して図書に親しんだり、ICT機器を活用して様々な形態の文に触れたりして、得られた知識を生活に活用しようとする態度を養う。	「こくご☆☆☆☆」P64	<u>知・技ア(ウ)</u> <u>C 読むイ</u>
年 間 を 通 し	言葉の勉強	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解する。 ・話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付く。 - 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解する。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する。		

	聞く・話す	・発音や声の大きさに気を付けて話す。 ・長音、拗音促音、撥音、助詞の女子の正しい読み方を知る。 ・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使う。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いて、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、分からないことを聞き返して、話の大体を捉える。 ・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める。 ・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考える。 ・自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話す。 ・相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ。		
	読む	・語句のまともに気を付けて音読する。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を読んで、季節に応じた表現があることを知る。 ・読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。 ・簡単な分野文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。 ・語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。 ・日常生活で必要な語句や文章を読み、行動する。 ・文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりする。		
	書く	・長音、拗音促音、撥音、助詞の女子の正しい書き方を知る。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを作って、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を書いて、季節に応じた表現があることを知る。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書く。 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書く。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めて、話の大体を捉える。 ・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめる。 ・相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ・文の構成、語句の使い方に気を付けて書く。 ・自分が書いたものを読み返し、間違いを正す。 ・文章に対する感想を持ち、伝え合う。		

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
中学部	2	Ⅱ	国語	70	中学部1・2段階

目 標	知識及び技能	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(1段階) 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(2段階)
	思考力、表現力、判断力等	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。(1段階) 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。(2段階)
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。(1段階) 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(2段階)

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学 期	「電話を使って伝えよう」(4)	・相手や状況に応じた話し方ができるようにする。 ・適切な話し方を身に付ける。 ・用件を伝えたり聞き取ったりすることができる。 ・電話の使い方に慣れる。 ・様々な方法で主体的に言葉を用いて他者とやりとりをしようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P14	知・技ア(カ) <u>1</u> A 聞く・話すエ <u>1</u>
	「日本を旅して」(4)	・情景や場面の様子などを想像できるようにする。 ・読書に親しみ、簡単な物語、自然や季節などの美しさを表した紀行文などがあることを知る。 ・読むことへの意欲を高め、伸ばす。 ・未知の場所や事物についての関心を一層高める。 ・自然や季節などの美しさを読み取ることができるようにする。	「こくご☆☆☆☆」 P22～26	知・技ウ(エ) <u>1</u> C 読むア <u>1</u>
	「俳句」(3)	・代表的な俳人の中から四つの句を取り上げる。 ・情景や新城等を容易に想像できるようにする。 ・自然や季節の情景を表した言葉を用いた俳句などを聞いたり作ったりし、五・七・五の十七音の言葉の響きやリズムに親しむことができる。 ・音読などにより情景を想像して、感じ取ったことを伝え合い情操を豊かにしていく態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P32	知・技ウ(ア) <u>1</u> C 読むア <u>1</u>
	「自転車の今昔」(4)	・関心をもって、身近な自動車の変化や初期の自動車について読むことができるようにする。 ・自動車が時間の経過とともに変化していることを、「いつ」どのような自動車が作られ、使われてきたか時間的な順序を表す言葉を手がかりに整理しながら理解できるようにする。 ・文章を読むことの楽しさを感じようとすることに対する興味を高める。 ・図鑑等で調べようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P68	知・技イ(ア) <u>1</u> C 読むイ <u>1</u>
	「順序よく書こう」(4)	・相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えられるようにする。 ・文章に対する感想をもち、伝え合えるようにする。 ・長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を理解できるようにする。 ・日々の生活をより豊かなものにしていこうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P98	知・技ア(ウ) <u>1</u> B 書く(ア) <u>1</u> B 書く(オ) <u>1</u>
	「伝わりやすくなるように書こう」(4)	・文の構成、語句の使い方に気を付けて書くことができるようにする。 ・自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができるようにする。 ・長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知る。 ・主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解できるようにする。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解できるようにする。 ・間違いに気付いて文章を正しく直そうとしたり、作文をよりよくしていこうとしたりする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P100	知・技ア(ウ) <u>1</u> 知・技ア(オ) <u>1</u> 知・技イ(ア) <u>1</u> B 書く(ウ) <u>1</u> B 書く(エ) <u>1</u>

	「学校の図書館で本を探そう」(4)	・学校の図書館に多様な本があることを知る。 ・読書する本の種類、分野、活用の仕方など、自分の読書の幅を広げる。 ・図書館の利用方法を身に付ける。 ・年齢にふさわしい様々な本に接し、情景や場面、心情を読み取るなどして、豊かな情操が育っていくようにする。	「こくご☆☆☆☆」P46	知・技ウ(エ)² C 読むア²
	「言葉のページ(修しよく語、何かを指し示す言葉、敬体と常体) (4)	・修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾の関係を理解し、自分の伝えたい事柄を詳しく説明したり、相手が伝えたい事柄を捉えたりする。 ・物事を指し示す語句の使い方を理解し、文や文章をより簡潔に表現したり、文と文との内容のつながりを明瞭に表したりする。 ・敬体と常体の違いを理解し、相手や目的を意識して文末表現に注意しながら分野文章を書けるようになる。 ・自分の書いた文章を一文一文丁寧に読み返し、必要に応じて間違いを正すことができる。 ・言葉の使い方について理解を深め、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」 P24～26	知・技ウ(ウ)㊦² 知・技ウ(ウ)㊧² B 書く(エ)²
2 学 期	「江戸小話(おない年、しりから入る) (4)	・江戸時代の短い笑い話である江戸小話で、とんちが効いている話の中でも分かりやすい二題材を取り上げる。 ・読んだ文章の内容を相手に伝えるために、読み取った内容が適切か自分で再考するとともに、印象に残ったフレーズ等を選んだり、文章全体の印象や文章の内容に対する思いを自分なりの言葉で表現したりする。 ・読書に親しみ、内容や記し方によって、物語や詩、紀行文といった種類に分類できることを知る。 ・我が国の言語文化を理解しようとする態度につなげる。 ・語句の意味などから、文や文章が表している場面の情景や事柄の流れ、登場人物の心情などを想像することを楽しみ、読むことへの意欲を高め、情操を豊かにする。 ・様々な相手と事柄や考え、気持などを共有するために伝え合おうとする態度を養う。	「こくご☆☆☆☆」 P29～30	知・技ウ(エ)¹ C 読むエ¹
	「点字の話」(4)	・点字がどのようなものかについて、接続する語句を正しく読み取ることで、文や文章の前後関係について代替を捉えながら読む。 ・前後のつながりを確かめながら、一文の意味を適切に理解できるよう、語と語の続き方を考えられるようにする。 ・自分を取り巻く周囲の環境に少しずつ関心を広げ、身の回りにあるものに気付いたり、知ろうとしたりする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P50	知・技ア(オ)¹ C 読むイ¹
	「校外学習に行く前に確認しよう」(4)	・校外学習について、学年や学部といった学級を超えた全体場でなされる説明を、話の内容や話し方に関心をもって聞き、日程等の話している事柄の順序や要点を書き留める。 ・書き留めたものを使いながら、分からない点や確かめたい点を教師や友達に質問して、内容の大体を理解する。 ・情報を集める場で聞き落してはいけない語や語句を選んで書き留めて、得た情報を整理して活用することができるようにする。 ・生徒が本題罪で学んだことを応用し、活用できるようになる。 ・生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉を用いて伝えたいことを明確にして伝えたり、対話の経験を積み重ねたりすることを通して、言葉を使ってどのように伝えるかを考えたり、いろいろな言葉の中からよりよい言葉を選び使ったりするなどして、思いや考えを伝え合おうとする態度が育まれるようにする。	「こくご☆☆☆☆」 P8～9	知・技イ(イ)² A 聞く・話すア²
	「詩(けいとうの花、私と小鳥と鈴と)」(3)	・情景や場面の様子、心情等を想像する。 ・読んで感じたことや分かったことを伝え合う。 ・文章全体として何が書かれているかを大づかみに捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら音読し、詩の楽しさを味わう。 ・多様な本や文章があることを知り、自分の読書の幅を広げる。	「こくご☆☆☆☆」 P40～42	知・技ア(キ)² 知・技ウ(エ)² C 読むア² C 読むオ²
	「スーパーマーケットの見学」(4)	・語句の意味や語句と語句、文と文の関係を手掛かりにしながら、スーパーマーケットで品物が販売されるまでの工程や販売に係る工夫などを捉えることができるようにする。 ・文中の語句の意味を基に場面の様子を想像したり、語と語や文と文のつながりに注意しながら出来事の順序や変化などをたどり、文章の内容を大まかに捉えたりする。 ・時間や事柄の順序に関わって文章の中で中心になる言葉や文、情報を適切に選択しながら内容を捉える。 ・文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、同じ文章であっても着目する部分や感じたこと、考えたことなどが、一人一人違うことに気付いたり、他者の感じ方のよさに気付いたりする。 ・様々な言葉に触れ、国語に対する関心を高める。 ・説明的文章に親しみをもち、進んで読書をしようとする態度を高める。	「こくご☆☆☆☆」P52	知・技ア(オ)² C 読むア² C 読むイ² C 読むエ² C 読むオ²

	「職場体験の感想文を書こう」(4)	・対話を通して、体験したことや感じたことについて明確にする。 ・構成を工夫しながら書いたり、互いの文章を読み合って感想を伝え合ったりする。 ・学校の中ではできない体験をしたことやそれらの体験から感じたこと、将来の就労に向けて考えたことなどを明確にし、文章の構成を考える。 ・周りの人とやり取りすることで、日常的に用いている言葉には、思考や感情を表す働きがあるということに気付けるようにする。 ・事実を客観的に書くとともに、その事実と自分の考えとの関係を十分に捉えて書けるようにする。 ・事物の説明や経験を相手に分かるように報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする上で、考えとそれを支える理由を明確にできるようにする。 ・文章を読み返す習慣を付け、間違いを正したり、語と語の続き方を確かめたりできるようにする。 ・表記の仕方や使い方に注意しながら書けるようにする。 ・書いた文章を互いに読み感想を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けられるようにする。 ・言葉を使ってどのように伝えるかを考えたり、いろいろな言葉の中からよりよい言葉を選び使ったりするなどして、思いや考えを伝え合おうとすることができるようになる。	「こくご☆☆☆☆」 P112～115	<u>知・技ア(ア)</u> ² <u>知・技イ(ア)</u> ² <u>B 書く(イ)</u> ² <u>B 書く(ウ)</u> ² <u>B 書く(エ)</u> ²
3 学期	「わらしべ長者」(4)	・主人公の様子や心情を想像したり、場面を想像したりしながら読み進めていく。 ・言い回しのリズムなどを楽しみながら、言葉のリズムや響きを楽しんで読むことで、音読の際にひとまとまりの語や文を意識して読む。 ・主人公の心情を想像しながら音読を楽しもうとしたり、お互いに考えたことを発表しようとしたりする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P74	<u>知・技ア(キ)</u> ¹ <u>C 読むア</u> ¹
	「自分の夢を話そう」(4)	・聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えることや、話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること、相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつことができるようにする。 ・発生や声の大きさに気を付けて話すことができるようにする。 ・主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解することができるようにする。 ・自分の思いや考えをまとめたり、相手に分かりやすく伝えたりしようとする態度を育てる。	「こくご☆☆☆☆」P106	<u>知・技ア(イ)</u> ¹ <u>知・技ア(オ)</u> ¹ <u>A 聞く・話すア</u> ¹ <u>A 聞く・話すイ</u> ¹ <u>A 聞く・話すオ</u> ¹
	「ぼくのカレーライス」(4)	・登場人物や会話文に着目しながら読むことで、主人公を中心とした登場人物の気持ちや変化、場面の様子を想像し、出来事の順序を含めて、どのような事柄がどのように書かれているかを大まかに捉える。 ・自分の経験と結び付け、主人公の立場に立って読み、感じたことを伝え合う中で、お互いの感じ方の違いや日常的に用いている言葉には、思考や感情を表す働きがあることに気付く。	「こくご☆☆☆☆」P74	<u>知・技ア(ア)</u> ² <u>C 読むア</u> ² <u>C 読むイ</u> ² <u>C 読むオ</u> ²
	「作ってみよう(カレーライス、飛び出すカード)」(4)	・説明書から必要な準備物を読み取ったり、作成の手順を理解したりして、調理をしたり、プレゼントカードを実際に作り上げたりする。 ・説明書を正しく読み取る過程において、文章の前後のつながりや、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係を理解できるようになる。 ・作品などを作り上げる喜びを味わう。 ・文章から必要な情報を読み取ることが作業につながっていることを実感し、注意書きや説明書の内容を進んで生活に生かそうとする態度を身に付ける。 ・学級で同じものを作ることに取り組み、読み取った作成手順を互いに伝えたり、上手くいかない時に質問したりするなど活発な言語活動を設定する。 ・本や文章には様々な性質があることを知る。 ・多様な分野文章に自ら触れようとする態度を養うきっかけとする。 ・実生活における様々な説明書などをさらに取り上げて指導する等、学習活動に広がりをもたせる。	「こくご☆☆☆☆」 P80～85	<u>知・技ア(オ)</u> ² <u>知・技ウ(エ)</u> ² <u>C 読むウ</u> ²
年間を通して	言葉の勉強	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解する。 ・話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付く。 - 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解する。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する。		
	聞く・話す	・発音や声の大きさに気を付けて話す。 ・長音、拗音促音、撥音、助詞の女子の正しい読み方を知る。 ・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使う。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いて、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、分からないことを聞き返して、話の大体を捉える。		

		・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める。 ・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考える。 ・自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話す。 ・相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ。		
	読む	・語句のまとまりに気を付けて音読する。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を読んで、季節に応じた表現があることを知る。 ・読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。 ・簡単な分野文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。 ・語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。 ・日常生活で必要な語句や文章を読み、行動する。 ・文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりする。		
	書く	・長音、拗音促音、撥音、助詞の女子の正しい書き方を知る。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを作って、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を書いて、季節に応じた表現があることを知る。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書く。 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書く。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めて、話の大体を捉える。 ・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめる。 ・相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ・文の構成、語句の使い方に気を付けて書く。 ・自分が書いたものを読み返し、間違いを正す。 ・文章に対する感想をもち、伝え合う。		

学部		学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
中学部		3	Ⅱ	国語	70	中学部2段階

目 標	知識及び技能	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学 期	「詩(われは草なり) (3)」	・「～なり」「～とす」などの使い方や意味を確認し、内容を把握できるようにする。 ・七五調であることを意識しながら、声に出して繰り返し読み、詩のリズムを感じられるようにする。 ・気になった言葉や好きな言葉について、なぜそう感じたのか理由を付け加えて発表する。 ・本にはいろいろな種類があることを知る。 ・互いに発表を聞き、一人一人の感じ方などに違いがあることを気付くこと。	「こくご☆☆☆☆☆」P2	知・技ウ(エ) C 読むア C 読むオ
	「みんなに伝えよう」(4)」	・学習への課題意識と見通しをもつために、教科書の挿絵について質問したり、音読したりする。 ・伝えたいことをどのように決めているかを考え、話し合うために、教科書の吹き出しを「いつ」「どこ」「どのように」「どうする」などの言葉で整理して示す。 ・決めたことを、どのような順序や伝え方で伝えようといかを考え、話し合うために、教科書の吹き出しに何が書いてあるかを発問し、順に整理する。 ・分かりやすく伝える工夫について考え、話し合うために、分かりやすく伝える工夫はないか発問する。 ・相手に伝えるときには、伝えたいことを明確にし、伝える順序や伝え方を考え、分かりやすく伝える工夫が大切であることを確認する。	「こくご☆☆☆☆☆」 P10・11・12・13	知・技ア(ア) A 聞く・話すイ A 聞く・話すウ
	「学校しょうかいをしよう」(4)」	・具体的な相手や話す目的意識を高め、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。 ・伝えたい相手に学校のどのようなことを紹介したいか生徒がそれぞれ考えたり、話し合ったりする。(学習で取り組んでいるところ、学校で気に入っているところ、好きな学校行事など) ・伝えたい事柄について内容を膨らませたり、整理したりする。(順序、構成、理由、具体的な事例) ・話し方を工夫して発表する。(声の大きさや速さなど、自己評価や他者評価を積み重ねる)	「こくご☆☆☆☆☆」 P14・15・16・17	知・技ア(ア) 知・技ア(イ) 知・技ア(オ) 知・技イ(ア) A 聞く・話すイ A 聞く・話すウ A 聞く・話すエ
	「言葉のページ」(4)」	・修しよく語・・・教師の発問を手掛かりにしながら必要な語句を加え、文の内容を詳しくしていくことで修飾・被修飾の関係に気付くことができるようにする。 ・何かを指し示す言葉・・・話し手や聞き手と指し示す対象との位置関係によって用いる言葉が変化することを理解できるようにする。 ・敬体と常体・・・文や文章を書く際の文末表現には、敬体と常体の二つの書き表し方があることについて例文を示しながら適した用い方を理解できるようにする。	「こくご☆☆☆☆☆」 P24・25・26	知・技ア(オ) 知・技ア(カ) B 書く(エ)
	「日本を旅して」(4)」	・日本の自然や文化の写真を見て、何を取り上げているか知る。 ・文章を音読し、内容を大まかに知る。 ・分からない語句を図書やインターネットで調べる。 ・調べた語句について話し合う。 ・文章を再度音読し、着目した語句や文章の感想を発表する。 ・学習を振り返る。	「こくご☆☆☆☆☆」P28	知・技ア(エ) 知・技ア(キ) C 読むア C 読むエ

	「俳句」(4)	・文と俳句、作者名を見て、俳句の学習をすることを知る。 ・俳句を音読し、内容を大まかに知る。音読後、俳句に詠まれていることについて質問する。 ・作者や分からない言葉を、図書やインターネットで調べる。 ・調べた作者や言葉について話し合う。 ・好きな俳句を一つ選び、暗記し、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。	「こくご☆☆☆☆」P36	<u>知・技ウ(ア)</u> <u>C 読むア</u>
	「短歌」(3)	・文と短歌、作者名を見て、短歌の学習をすることを知る。 ・短歌を音読し、内容を大まかに知る。 ・作者や分からない言葉を、図書やインターネットで調べる。 ・調べた作者や言葉について紹介し合う。 ・好きな短歌を一つ選び、暗記し、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。	「こくご☆☆☆☆」P38	<u>知・技ウ(ア)</u> <u>C 読むア</u>
	「ことわざ、標語」(4)	・ことわざや標語の意味を調べたり、話し合ったりする場面を設ける。どんな時に使うか意見を出し合うようにする。 ・ことわざや標語を調べ、意味と文例をカードにまとめられるようにする。 ・調べてまとめたことを発表し合い、感想を伝え合うようにする。	「こくご☆☆☆☆」P44・45	<u>知・技ウ(イ)</u>
2 学 期	「話し合って決めよう」 (4)	・話し合いの人数や内容について確認しながら教科書の文章を読み、大まかな内容を理解できるようにする。 ・司会者や提案者などの役割を知る。 ・それぞれの意見について共通点や相違点をまとめられるようにする。 ・話し合いの仕方の例示を参考にし、実際に役割分担をして話し合いの場面を設ける。 ・話し合いをして、良かった点や難しかった点、気付いた点などを発表し合う。	「こくご☆☆☆☆」P18	<u>知・技イ(ア)</u> <u>A 聞く・話すア</u> <u>A 聞く・話すイ</u> <u>B 書く(ア)</u>
	「最後のうそ、うなぎ屋」 (4)	・江戸時代の小話について、挿絵を見せながら教師が範読し、様子を想像できるようにする。 ・文章を読んで大まかな内容を捉える(登場人物の行動や様子、「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」、気持ちの変化など)。 ・読んで感じたことを教師や生徒同士で発表し合うようにする(着目した部分、感想など)。 ・学習の振り返りをする。	「こくご☆☆☆☆」P32・34	<u>知・技ア(キ)</u> <u>知・技ウ(エ)</u> <u>C 読むア</u> <u>C 読むオ</u>
	「ニホンザルの子供」(4)	・教科書の挿絵や動画を用いて、本題材の内容に興味をもつことができるようにする。 ・本題材をニホンザルの成長過程ごとに分けて文章の内容を読み取ることができるようにする。 ・段落ごとに内容を確認し、発問をし、発問に対する回答が記してある部分を探したり、分かったことを箇条書きにまとめたりする。 ・ニホンザルの写真や動画を、成長過程に沿って並べ替える活動を設定し、文章全体の内容を確認することができるようにする。 ・動物図鑑等を使って他の動物の成長過程を調べ、時系列で成長の様子を発表する。	「こくご☆☆☆☆」P48	<u>知・技ア(オ)</u> <u>C 読むア</u> <u>C 読むイ</u> <u>C 読むエ</u> <u>C 読むオ</u>
	「修学旅行の思い出、お わら風の盆に行って」 (4)	・題材名や地図、写真を提示して、経験したことや調べたことがあることについて、教師や生徒同士で発表し合う。 ・文章を読んで大まかな内容を捉える(出来事の順序、筆者の心情など)。 ・読んで感じたことや分かったことを教師や生徒同士で発表し合えるようにする。 ・学習の振り返りをする。	「こくご☆☆☆☆」P62・66	<u>知・技ウ(エ)</u> <u>C 読むア</u> <u>C 読むオ</u>
	「泣いた赤おに」(4)	・題材名や挿絵を見て、物語の学習をすることを知る。 ・物語を最後まで読み、着目した箇所や語句を伝え合う(生徒が話したことを登場人物を主語に整理する)。 ・場面ごとに読み、着目した箇所や語句を伝え合う(登場人物や接続する語句、修飾語に着目させる)。	「こくご☆☆☆☆」P68	<u>知・技ア(オ)</u> <u>C 読むア</u> <u>C 読むイ</u>

		・物語を最後まで再読し、感じたこととその理由を発表する。 ・学習を振り返る。		C <u>読む</u>エ C <u>読む</u>オ
	「山ねこ、おことわり」(4)	・題材名や挿絵を見て、物語の学習を知ることを知る(この物語を知っているか、読んだことがあるか)。 ・登場人物に着目して、物語を最後まで読む。 ・場面が分かれていることを知り(行間)、若い男の人と山ねこが変化する場面を確かめる(場面の順に登場人物を整理)。 ・着目した箇所や語句、感じたことを伝え合う。 ・場面ごとに読み、着目した箇所や感じたことを伝え合う(登場人物、会話文、修飾語、様々な色、登場人物と気持ちや言動)。 ・物語を最後まで再読し、感じたこととその理由を発表する。 ・学習を振り返る。	「こくご☆☆☆☆」P86	知・技ア(エ) 知・技ア(オ) C <u>読む</u>ア C <u>読む</u>イ C <u>読む</u>エ C <u>読む</u>オ
	「街の新聞を作ろう」(4)	・学習への意識と見通しをもつ(新聞作りの経験を質問、教科書の見出しや挿絵を示し作成過程を伝える)。 ・調べて分かったことがどのような順番で整理されているか考え、伝え合う。 ・伝えたいこととして何を選び、どのように整理されているかを考え、伝え合う。 ・まとめたことをどのように新聞として表しているかを考え、伝え合う。 ・学習を振り返る。	「こくご☆☆☆☆」 P106・107・108・109	知・技ア(ウ) 知・技ア(オ) 知・技イ(ア) B <u>書く</u>(ア) B <u>書く</u>(イ) B <u>書く</u>(ウ) B <u>書く</u>(エ)
3 学 期	「医学の発展につくした日本人」(4)	・予防接種や服薬の様子を撮影した写真や絵を提示しながら、本題材への興味・感心を高めることができるようにする。 ・場面に分けて学習を進めることで、野口英世の生涯について時代のまとまりを捉えながら文章を読み取ることができる。 ・教師の音読を聞いたり、生徒が音読したりしながら、語句の意味を調べたりする活動に取り組む。 ・野口英世の経験や時代背景と野口英世の言動を対応させて読み取り、自分なりの感想をもったりすることができるようにする。 ・野口英世の事績について分かったことや、感想等を話し合う。 ・伝記を探して読み、選んだ理由や、描かれている人物の事績、読んだ感想などを話し合う。	「こくご☆☆☆☆」P58	知・技ア(オ) C <u>読む</u>ア C <u>読む</u>イ C <u>読む</u>エ C <u>読む</u>オ
	「呼びかけ」(4)	・文章全体を読み、内容を理解する。 ・教科書の空欄にどんな文章を入れたらよいか、話し合って決める。 ・相手によりよく伝わるために、どんな話し方をしたらよいか考える。 ・呼びかけの担当箇所を決め、練習する。	「こくご☆☆☆☆」P98	知・技ア(イ) 知・技ア(キ) C <u>読む</u>ア
	「お礼の手紙を書こう」 (4)	・教科書の場面設定を捉えられるよう、「誰に書くのか」等についておさえながら読む。 ・感謝の気持ちを分かりやすく伝えるためにはどんな言葉で表現するのが適切か考え、意見を出し合う。 ・手紙を書く順番について①初めのあいさつ②本分③結びのあいさつ④日付⑤自分の名前⑥相手の名前の 6 つの項目があることを知る。また、敬体で書くことや読み返すことなどについてもおさえ、教科書の例を丁寧な文字で視写する。 ・実生活の中でお世話になっている人を思い起こし、手紙を書く相手を決める。	「こくご☆☆☆☆」P108	知・技ア(ウ) 知・技ア(カ) 知・技ウ(ウ)㊦㊧ B <u>書く</u>(ア) B <u>書く</u>(エ)
を 年 通 間	言葉の勉強	・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解する。 ・話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付く。		

		主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解する。 ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する。		
	聞く・話す	・発音や声の大きさに気を付けて話す。 ・長音、拗音促音、撥音、助詞の女子の正しい読み方を知る。 ・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使う。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いて、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、分からないことを聞き返して、話の大体を捉える。 ・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める。 ・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考える。 ・自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話す。 ・相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ。		
	読む	・語句のまとまりに気を付けて音読する。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を読んで、季節に応じた表現があることを知る。 ・読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。 ・簡単な分野文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。 ・語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。 ・日常生活で必要な語句や文章を読み、行動する。 ・文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりする。		
	書く	・長音、拗音促音、撥音、助詞の正しい書き方を知る。 ・自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを作って、言葉の響きやリズムに親しむ。 ・挨拶状などに書かれた語句や文を書いて、季節に応じた表現があることを知る。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書く。 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書く。 ・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めて、話の大体を捉える。 ・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめる。 ・相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ・文の構成、語句の使い方に気を付けて書く。 ・自分が書いたものを読み返し、間違いを正す。 ・文章に対する感想をもち、伝え合う。		

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
高等部	1	Ⅱ	国語	70	高等部 1段階

目 標	知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1 学期	「自分のことを伝えよう」 ・挨拶の仕方 ・自己紹介 ・電話のかけ方 (8)	○丁寧な言葉を知り、それを使って自分のことを相手に伝えることができる。 ○社会生活に関わる人とのやりとりを通して、言葉には考えたことや思ったことを働きがあることに気づく。 ・日常よく使われている敬語を理解し、自己紹介や電話の応対で使えるよう練習する。 ・話し手が伝えたいことの中に注意して聞き、話の内容を捉える。 ※人前が苦手な生徒には、動画にとって流すなど工夫する。	暮らしに役立つ国語 「自己紹介をしよう」(テキスト1・ワーク1) 「表現力を高めよう(敬語)」(ワーク14) 「あいさつや会話をする力を高めよう」(ワーク15) 「電話のかけ方」(テキスト8 ワーク4)	知・技ア(ア)(イ)(カ) A 聞く・話す ア ウ
	「いろいろなものを読んでみよう」 ・新聞 ・折り込み広告 ・詩 本 (17)	○いろいろな文章を読み、そこに書かれている情報や心情を読み取ることができる。 ・新聞や広告の中から、語句や段落の働き、図表等に注意して必要な情報を見つける。 ・登場人物の心情や行動、情景等、叙述をもとに想像したり捉えたりする。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つ。	暮らしに役立つ国語 「詩に親しもう」(テキスト12) 「小説に親しもう」(テキスト16) 「本に親しもう」(ワーク12) 「資料」(ワーク 16) 様々な広告、新聞	知・技ア(オ)(キ) イ(ア)(イ) ウ(ウ) C 読むアイウエオ
2 学期	「言葉について学習しよう」 (24) ・言葉について ・辞書について ・外来語 ローマ字	○いろいろな言葉の意味や表現方法を知り、適切な手段で調べたり書いたりすることができる。 ・国語辞典の使い方を理解し、実際に使ってみる。 ・生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使う。 ・表現したり理解したりするために必要な語句の量を増やす。	暮らしに役立つ国語 「辞書を活用しよう」(テキスト3・ワーク8) 「表現力を高めよう」(ワーク14) 国語辞典、漢和辞典、アルファベット表	知・技ア(エ)(オ) イ(イ) ウ(ア)
	「年賀状を書こう」 (6)	○目的に応じて使用する筆記具を選び、適切な大きさの文字を書くことができる。 ・相手に応じて適切な添え書きを考え、文字を整えて書く。	暮らしに役立つ国語 「お世話になった人にお礼の手紙を書こう」 (テキスト10・ワーク5)	知・技ウ(イ) B 書くア
3 学期	「書き初めをしよう」 (2)	○筆の持ち方を知り、手本を見ながら筆順通りに書くことができる。 ・用紙の大きさに合わせ、文字の大きさや配列などを決めて書く。 ・目的に応じて使用する筆記具を選ぶ。 ※ 事前に書きたい文字を聞き、手本を準備する。	暮らしに役立つ国語 「書き初めをしよう」(テキスト14)	知・技ウ(イ)
	「いろいろなことを書いてみよう」 ・作文 ・手紙 (13)	○書く内容の中心を決め、内容のまとめや相手に伝わりやすい言葉に配慮して文章を作成することができる。 ・中学卒業までにお世話になった先生に高等部での 1 年間の様子を手紙に書いて知らせる。	暮らしに役立つ国語 「思い出を文章にして残そう」(テキスト15) 「手紙を書こう」(ワーク5)	知・技ア(ウ)(エ)(オ)(カ) イ(ア)(イ) ウ(イ) B 書くアイウエオ
年 間	漢字の読み書き	○文字の組み立て方を理解し、形を整えて書いたり、漢字と仮名を用いた表記や送り仮名のつけ方を理解して文や文章の中で使ったりすることができる。		知・技ア(ウ) ウ(ア)(イ)(ウ)
	日記・俳句	「俳句を作ろう」(テキスト11・ワーク10) ○書きたい場面や心情を明確にして、言葉で表現することができる。		A 聞く・話す イ オ C 読む オ

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
高等部	2	Ⅱ	国語	35	高等部 1・2段階

目 標	知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。(1段階) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。(2段階)
	思考力、表現力、判断力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。(1段階) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。(2段階)
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(1段階) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(2段階)

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1学期	「インタビューをしよう②」(4) ・インタビュー準備 ・インタビュー ・インタビューのまとめ	○友だちと意見を交わしながら質問内容を設定し、丁寧な言葉づかいで他学年の先生にインタビューすることができる。 ・インタビューの内容やインタビューするときに注意することなどを考えさせる。 ・インタビュー時の正しい言葉使いについて話し合い、練習させる。 ＊インタビューの記録は準備したメモ帳に書かせる。	「自己紹介をしよう」(テキスト1・ワーク1) 「インタビューをしよう」(ワーク6) 「表現力を高めよう(敬語)」(ワーク14) 「あいさつや会話をする力を高めよう」(ワーク15)	知・技ア(ア)(イ)(カ) <u>1</u> <u>2</u> A 聞く・話す ア オ <u>2</u> B 書くア ウ <u>2</u>
	「読書発表会をしよう」(4) ・発表までの手順を考える ・発表の仕方を考える	○自分の興味のある本を選び、最後まで読むことができる。 ○一人で考え決定し、発表内容を考え、発表することができる。 ＊発表内容は iPad の Pages を使ってまとめ、発表する。	「本に親しもう」(ワーク12)	知・技ア(ウ)(キ) <u>2</u> ウ(ア)(エ) <u>2</u> A 聞く・話す ウ <u>2</u> エ <u>1</u> B 書く ウ カ <u>2</u> C 読む ア イ ウ <u>2</u> オ <u>1</u>
2学期	日本のことを調べて発表しよう。(8)	○修学旅行を控え、旅行先について調べ、発表原稿を作成することができる。 ・修学旅行先の基本情報や観光地、特産品、お土産などを調べ、さらに自分が行きたいところを細かく調べる。 ＊iPad を使って調べ学習を行う。発表原稿は keynote を使ってまとめ、発表する。	「調べて発表しよう」(ワーク9) 「インターネットで検索しよう」(テキスト 4)	知・技イ(ア)(イ) <u>2</u> A 聞く・話す イ エ <u>1</u> ウ <u>2</u> B 書く ウ エ カ <u>2</u> C 読む エ <u>2</u> オ <u>1</u>
	「年賀状を書こう」(3)	○目的に応じて使用する筆記具を選び、はがき全体のバランスを見て、文字の大きさや配列を考えて書くことができる。 ○今年の目標など書き添えることができる。	「お世話になった人にお礼の手紙を書こう」 (テキスト10・ワーク5)	知・技ア(ア)(イ)(ウ) <u>2</u> ウ(ウ)㊦㊦ <u>2</u>
3学期	書き初めをしよう(2)	○手本を見ながら「とめ、はね、はらい」等を意識して、筆順通りに書くことができる。 ○用紙全体のバランスを見て、文字の大きさや配列を考えて書くことができる。 ＊事前に書きたい文字を聞き、手本を準備する。	「書き初めをしよう」(テキスト14)	知・技ウ(ウ)㊦㊦ <u>2</u>
	未来新聞を作ろう(4)	○文や文章の中で漢字や仮名を使い分けて書くことができる。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 ・10 年後、20 年後の自分について想像して書かせる。	「新聞を作ろう」(ワーク7) 「わたしの物語を書こう」(ワーク13)	知・技ア(ウ) <u>2</u> B 書く ア カ <u>2</u> イ オ <u>1</u>
年間を通して	「日常生活に必要な漢字や言葉を覚えよう」(10) ＊各授業の最初の 15 分を使って学習を進める	○「敬語」「文法」「語彙」「言葉の意味」「表記」「漢字」の 6 つの領域の問題に取り組み、正しい日本語を覚えることができる。 ○職業生活に必要な漢字や語句を覚え、その意味を理解することができる。	「辞書を活用しよう」(テキスト3ワーク8) 「表現力を高めよう(敬語)」(ワーク14) 「あいさつや会話をする力を高めよう」(ワーク15)	知・技イ(ア)(イ) <u>1</u> (ウ)(エ)(オ)(カ) <u>2</u> ウ(イ) <u>2</u>

学部	学年	教育課程	教科等	年間授業時数	段階
高等部	3	Ⅱ	国語	35	高等部2段階

目 標	知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

時期	単元名（時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に 示されている指導内容
1 学 期	「インタビューをしよう②」(4) ・インタビュー準備 ・インタビュー ・インタビューのまとめ	○友だちと意見を交わしながら質問内容を設定し、丁寧な言葉づかいで他学年の先生にインタビューすることができる。 ・インタビューの内容やインタビューするときに注意することなどを考えさせる。 ・インタビュー時の正しい言葉使いについて話し合い、練習させる。 ＊インタビューの記録は準備したメモ帳に書かせる。	「自己紹介をしよう」(テキスト1・ワーク1) 「インタビューをしよう」(ワーク6) 「表現力を高めよう(敬語)」(ワーク14) 「あいさつや会話をする力を高めよう」(ワーク15)	知・技ア(ア)(イ)(カ) A 聞く・話す ア オ B 書く ア ウ
	「読書発表会をしよう」(4) ・発表までの手順を考える ・発表の仕方を考える	○音読をしたり読み聞かせを聞いたりすることで言葉の響きやリズムに親しむことができる。 ○自分の興味のある本を選び、最後まで読むことができる。 ○一人で考え決定し、発表内容を考え、発表することができる。 ＊発表内容は ipad の Pages を使ってまとめ、発表する。	「本に親しもう」(ワーク12)	知・技ア(ウ)(キ) ウ(ア)(エ) A 聞く・話す ウ エ B 書く ウ カ C 読む ア イ ウ オ
2 学 期	「世界のことを調べて発表しよう」(5) ・世界のことを知る ・調査・発表メモを作成 ・発表	○今まで学習してきたことを使い、テーマに合った内容を調べ、発表原稿を作成することができる。 ・自分の興味のある国の位置や大きさ、人口、気候などの基本情報や食べ物、産業、日本との違いなどを調べる。 ＊ipad を使って調べ学習を行う。発表原稿は keynote を使ってまとめ、発表する。	「調べて発表しよう」(ワーク9) 「インターネットで検索しよう」(テキスト 4)	知・技イ(ア)(イ) A 聞く・話す イ ウ エ B 書く ウ エ カ C 読む エ オ
	「履歴書を書こう」(4) ・正しい情報の確認しておこう ・履歴書をかいてみよう	○履歴書がはじめてお世話になる会社などに自分を知ってもらうための大切なものであることが理解できる。 ○正しい内容で間違いがないように書くことができる。また、丁寧に書くことができる。 ＊履歴書は全国高等学校統一履歴書を使用する。	「履歴書を書こう」(テキスト6)	知・技ア(ウ) ウ(ウ)㊦㊧
	「年賀状を書こう」(2)	○目的に応じて使用する筆記具を選び、はがき全体のバランスを見て、文字の大きさや配列を考えて書くことができる。 ○今年の目標など書き添えることができる。	「お世話になった人にお礼の手紙を書こう」 (テキスト10・ワーク5)	知・技ア(ア)(イ)(ウ) ウ(ウ)㊦㊧
3 学 期	「書初めをしよう」(2)	○手本を見ながら「とめ、はね、はらい」等を意識して、筆順通りに書くことができる。 ○用紙全体のバランスを見て、文字の大きさや配列を考えて書くことができる。 ＊事前に書きたい文字を聞き、手本を準備する。	「書き初めをしよう」(テキスト14)	知・技ウ(ウ)㊦㊧
	「未来新聞を作ろう」(4)	○文や文章の中で漢字や仮名を使い分けて書くことができる。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 ・10 年後、20 年後の自分について想像して書かせる。	「新聞を作ろう」(ワーク7) 「わたしの物語を書こう」(ワーク13)	知・技ア(ウ) B 書く ア イ オ カ
年 間 を 通 し て	「日常生活に必要な漢字や言葉を覚えよう」(10) ＊各授業の最初の 15 分を使って学習を進める	○「敬語」「文法」「語彙」「言葉の意味」「表記」「漢字」の 6 つの領域の問題に取り組み、正しい日本語を覚えることができる。 ○職業生活に必要な漢字や語句を覚え、その意味を理解することができる。	「辞書を活用しよう」(テキスト3ワーク8) 「表現力を高めよう(敬語)」(ワーク14) 「あいさつや会話をする力を高めよう」(ワーク15)	知・技ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ) ウ(イ)